

Kendai [秋田県立大学広報誌]

イスタ

Akita Prefectural University



【ASEAN 科学技術第 17 陣が来学しました】

アジア大洋州諸国との青少年交流事業「JENESYS2.0」の一環で、カンボジア、ミャンマー、東ティモールの三カ国から総勢 76 名の学生が「ASEAN 科学技術第 17 陣」として、6 月 19 日に本荘キャンパスを訪れました。

訪問団は建築や都市計画を学んでいる学部生、大学院生からなり、キャンパス内の見学や講義で熱心な質疑が交わされました。本学の学生にとっても ASEAN 諸国への関心を持つきっかけになると共に、彼らの意欲的、かつ真摯な態度から学ぶことも多かったようです。

特集

世界と県立大学の つながりかた

Contents

- 01. 特集「世界と県立大学のつながりかた」
- 05. 図書館だより
- 06. 瞬間風速

多様化が進み、国と国との垣根が低くなってきている今日の社会の中で、国際感覚の重要性がますます高まっています。

海外でも活躍できる人材の育成を目指す秋田県立大学が、どのように世界と繋がっているかを「国際交流」の視点から特集します！

本学の国際交流は、国際感覚を備えた人材の育成と、本学の教育・研究の水準を高め、さらには地域貢献の強化を目的としています。現在7つの国と地域、19の大学・学部と大学間・部局間協定を締結しており、交流事業を行うことを基盤に進められています。

平成 23 年度から学生海外派遣事業を開始し、英語圏での語学研修と協定校への短期留学を実施しており、海外でも活

躍できる人材の育成を目指し、協定校の拡大や交流プログラムの実施、シンポジウムの開催等多様な取組を行っています。今後はさらなる協定校の拡大等を進め、交流の機会を増やしていき、学生の多様なニーズに応えるプログラムの企画や、インターンシップ、留学生の派遣・受入など、相手国・大学の特徴を活かした交流を行っていきます。

大学間協定

国・地域名	大学名	締結年月日
台湾	宜蘭大学	平成20年2月29日
台湾	東華大学	平成20年2月29日
中国	大連工業大学	平成23年1月11日
中国	上海理工大学	平成23年1月12日
韓国	順天大学校	平成24年2月21日
中国	清華大学深圳大学院	平成25年5月15日
中国	西南交通大学	平成25年11月5日

部局間協定

部局名	国・地域名	大学・学部等名	締結年月日
システム	韓国	東西大学校情報システム工学部	平成15年3月3日
	中国	蘭州大学情報科学工学院	平成17年12月12日
	中国	東北大学信息学院	平成22年11月29日
	中国	蘭州大学化学化工学院	平成23年2月22日
	中国	北京航空航天大学経済管理学院	平成23年10月19日
	インド	ピヤニ大学	平成24年9月13日
生物	タイ	コンケン大学理学部	平成24年1月19日
	タイ	カセサート大学農学部	平成24年7月10日
	カナダ	ゲルフ大学生物科学部	平成25年2月1日
木高研	中国	西北民族大学生命科学与工程学院	平成26年2月26日
	ハンガリー	西ハンガリー大学木材科学部	平成14年12月27日
	韓国	ソウル大学農学生命科学大学	平成26年10月1日

News & Topics

学生の発明が商品化されました！

生物環境科学科 3 年の加藤愛咲さんとアグリビジネス学科 3 年の伊藤絵梨さんが金足農業高校在学中に申請したヤマビルの忌避剤に関する特許が商品化され、6 月 1 日より販売されました。これを受け加藤さんが佐竹秋田県知事を訪問し、報告を行いました。

この研究は、2 人が金足農業高校に在籍していた平成 21 年に始めたもので、本学に入学した後も学生自主研究制度を利用して研究を続け、平成 25 年 3 月 29 日に特許権を取得しました。

このヤマビル除けスプレー「ダウンヒル」は、秋田市の香水専門店パレアンヌで販売されています。



国際交流プログラム

秋田県立大学では日々変化している海外情勢や、実施可能なプログラムの内容、学生のニーズを的確に捉えるため、毎年学生を派遣する先の見直しを行っています。ここからは平成 26 年度の 5 つのプログラムと、そのうちすでに実施された 3 つのプログラムに参加した学生の声を紹介します。



タイ／カセサート大学短期留学

平成 24 年 7 月に生物資源科学部と部局間学術交流協定を締結したカセサート大学農学部とは、平成 24 年度に 1 名の学生を 1 年間派遣するとともに、カセサート大学農学部の学生 4 名と教員 1 名が本学を訪れるなど積極的に交流を行っており、昨年度までの 2 年間で 9 名の学生が本プログラムに参加しています。

今年度も、「東南アジア有数の農業生産を背景としたタイの大学農学部での教育・研究の体験」、「タイの文化、産業、言語などを含めた国際感覚の養成」、「今後の学生交流の発展方向の探索」という三つの目標のもと短期留学プログラムを実施し、6 名の学生が参加しました。

中国／上海理工大学夏期留学

上海理工大学は創立 110 周年を迎える総合大学として、40 カ国・地域からの 1,000 名以上の留学生が在籍する大学です。本学とは平成 23 年 1 月より大学間協定を締結しています。

3 回目の派遣となる今年度は、システム科学技術学部から 6 名、生物資源科学部から 4 名の学生が参加しました。広い視野と高いコミュニケーション能力を持ち、海外でも活躍できる学生の育成を目標に実施したプログラムでは、英語での専門講義や実験室の見学が行われたほか、日系企業への訪問や歴史文化遺産の見学などの課外活動も実施されました。



グアム／グアム語学研修

今年度で 3 回目となるプログラムには、システム科学技術学部から 10 名、生物資源科学部から 6 名の学生が参加し、広い視野で物事を考える力を身につけることを目標に実施しました。

グアム大学での英語学習コース (ESL) の受講や、社会学の授業の聴講などを行った他にも、グアム大学の学生や現地の人々へのインタビューや、ダンス体験、調理体験などを通じて、グアムに古くから伝わる「チャモロ文化」に触れるなどの課外活動も実施しました。語学だけでなく、現地のさまざまな施設を訪れたり、文化を学んだりすることもできる内容となっています。

これからの開催予定

インド／ビヤニ大学学生交流

ビヤニ大学は 7 つの単科大学群からなる大学で、平成 24 年の 9 月にシステム科学技術学部と部局間交流協定を締結し、本学からビヤニ大学への留学は、今年度が初の取組となります。2 月に実施する交流プログラムでは、一週間の日程の中で英語の専門講義や実験室の見学といった研究交流や、歴史文化遺産見学などを通じた異文化体験を行うこととなっており、4 名の学生が参加する予定です。

中国／清華大学深圳大学院研究交流

中国広東省に位置する深圳大学院は、常に時代のニーズをとらえた最先端の研究を行う、清華大学の大学院です。世界有数の大学と積極的な学術交流を行っており、本学とは平成 25 年 5 月 15 日に大学間協定を締結しました。1 月には最先端の研究に触れることで学生の視野を広げることを目的に、大学院生 10 名程度を派遣する予定です。

留学体験インタビュー

タイ



生物資源科学部
生物生産科学科 3年

鈴木 朱里
(すずき じゅり)

山形県／鶴岡北高校出身



Q 今回の留学に参加した目的を教えてください。

A 今回の留学には、二つの目的がありました。一つ目は、タイという日本とは文化も気候も異なる土地の農業を学ぶということです。二つ目の目的は、自分の英語でのコミュニケーション能力の向上です。去年の夏休みにグアム大学へ短期留学をしましたが、英語で学生の方たちとコミュニケーションをとることに慣れず、後悔の残る留学となってしまい、より英語で会話できるようになりたいと思い参加しました。

Q 留学先では、どのようなことを勉強しましたか。

A カセサート大学では、トウモロコシやコメ、害虫などについて学んだり、グアバや食肉の加工体験をしたりしました。また、大学内にある様々な研究施設を見学させていただき、様々な研究分野に触れてきました。他にも、タイの王宮に行ったりゾウに乗ったりなどして、タイの文化や風習も学んできました。

Q 留学を希望している方へメッセージをお願いします。

A 私は大学で行われている研究以外に、文化や風習、気候や料理、学生や教員の方々の温かさなど、日本では感じられないものにたくさん触れてきました。そのことは、私の今後の人生における視野を広げることに繋がると感じますし、もし留学のチャンスがある方は、ぜひチャレンジしてほしいと思います。

Q 今回の留学に参加した目的を教えてください。

A 大学に入ってから、異なる文化、異なる考え方を持つ人々と関わって、もっと自分の視野を広げてみたいと思っていましたが、当時の自分は勇気が出ずに何もできませんでした。先輩や親に相談し、後押ししてもらおううちに自分の外国へ行きたいという気持ちが強くなっていきました。そんなときにこの留学プログラムがあると聞き、今回は勇気を出して参加しました。

Q 留学先で感じた日本との違いや、印象的だったことは？

A 活気があふれていると思いました。道路も人も混雑していて、一人ひとり前へ前へという意識が感じられました。大学生もみんな明るくてみんなそれぞれ打ち込んでいることがあって一生懸命でした。

Q 留学を希望している方へメッセージをお願いします。

A 海外に行くというのはとてもハードルが高いと考える人は多いと思います。言葉も通じず文化や習慣も違う国に行くのは勇気が要りますが、一歩踏み出してみたらたくさんの経験を得ることができました。これからの目標もできて、心から留学に参加してよかったと思っています。皆さんも一歩の勇気で人生変えてみませんか？

中国



システム科学技術学部
機械知能システム学科 3年

竹田 愛
(たけだ あい)

新潟県／三条高校出身

Q 今回の留学に参加した目的を教えてください。

A まず海外に行ってみたい、という思いがあったからです。海外留学については大学に入学した時から考えていました。当時の語学研修にも応募しましたが、力不足で選考されず、悔しい思いをしました。その時からもっと英語を勉強したいという思いが強くなり、力を入れて英語を勉強するようになりました。

Q 留学先で感じた日本との違いや、印象的だったことは？

A 人々の温かさです。グアムの大学生は気軽に話しかけてくれたし、私たちにいるいるなところを案内してくれました。街に出れば店員さんが笑顔で気さくに挨拶してくれたことも印象的で、観光地グアムは、ロケーションや気候だけではなく、人々の温かさでも大きな魅力なのだと思いました。

Q 留学を希望している方へメッセージをお願いします。

A 留学は語学だけでなく、その土地の人々の考え、価値観なども学べます。そこで得た経験は、日本に帰ってきてからも良い刺激になると思います。今回は短い期間でしたが、今後本格的な留学してみたいと思うようになりました。ぜひ外に一歩踏み出してみてください。そうすれば違う世界が見えてきます。

グアム



システム科学技術学部
電子情報システム学科 3年

森川 歩
(もりかわ あゆむ)

秋田県／大館鳳鳴高校出身



海外から県立大学へ

留学生



システム科学技術研究科
経営システム工学専攻 1年

黄 菁言
(コウ セイゲン)

中国/無錫

Q いつ頃から留学を考えましたか。また、留学先として秋田県立大学を選んだ理由は？

A 子供の頃から日本のアニメが大好きで、日本の事をよく知っていました。日本へ行きたいと思っていました。日本への留学は大学二年生の時から考えていて、三年生の時に決めました。

日本のどの大学に留学しようか考えていたところ、以前、日本に留学していた親戚に、素敵なキャンパスで先生も優しい人が多く、それに私の出身地では見られない海も雪も見られる秋田県立大学をすすめられました。

Q 現在、秋田県立大学ではどんな研究をしていますか。

A 中国の代表的な企業であるハイアール (Haier) と日本の代表的な企業である東芝 (Toshiba) について研究を行っています。景気変動に左右されやすい家電業界で、ハイアールはどのようにして成長することができたのか、また東芝はどのようにして好業績を維持することができたのかを明らかにするために比較分析を行っています。

Q これからの目標を教えてください。

A 将来の選択肢を広げたいので、博士前期課程への進学をしました。これからも熱心に研究に励み、日本と中国企業の経済発展に貢献できるようになりたいと思います。私が子供の頃から好きな国である日本と、私の母国である中国と一緒に発展して、明るい未来を迎えて欲しいと思います。



教員

Q 日本に来たきっかけを教えてください。

A 類は友を呼ぶという諺がありますが、友人が私より先に日本に留学をしたことがきっかけでした。きっかけは友人でしたが、日本を留学先として選んだ理由は第一にキャリアを積み、第二に視野を広げ、第三に日本と韓国の架け橋になることなどでした。

Q 先生の研究室には先生を含め3カ国の方がいますが、多国籍の研究室になることで何か違いはありますか？

A 私たちの研究室ではお互いに異なる地域、国を背景に言葉、文化、習慣が違うということを意識して交流しています。そして、双方の独特な文化と習慣を尊重することがお互いのコミュニケーションの促進に役立つことを学びます。また、お互いに新しい思考やバラタイムに触れることでグローバル社会でのあり方を模索し、異文化の環境に適応する良い経験を積むことができます。

Q 学生へのメッセージをお願いします。

A 人生は選択と出会いによって決定付けられると思います。何を選択するかは自由ですが、その選択した結果は自分の人生の一部となります。そこで良い選択をするためには、良い夢を持つ必要があります。そして、出会いを大切にしてください。“類は友を呼ぶ”といわれるように、良い人生を築き上げていく人は、その人生で出会う人々を大切にすると人だと思えます。

システム科学技術学部
経営システム工学科
専門分野：管理会計

朴 元熙 教授

(パク ウォンヒ)
韓国/ソウル



秋田県立大学機関リポジトリ運用スタート!

「秋田県立大学機関リポジトリ」とは、本学で生み出されたさまざまな研究教育成果(学術論文・教育資料・報告資料・図書資料・博士学位論文など)を、電子的な形態で永続的に蓄積・保存し、インターネットを通してどなたでも無料でアクセスできるように公開することを目的とした学術コンテンツデータベースで、平成26年5月から運用がスタートしました。

現在公開しているのは「秋田県立大学ウェブジャーナル」と「学術論文」、「博士学位論文」で、秋田県立大学ホームページの左下にあるバナーからアクセスできます。

現在公開中の内容

- 秋田県立大学ウェブジャーナル
- 学術論文
- 博士学位論文

内容は
今後も追加予定!



秋田県立大学機関リポジトリ
<https://akita-pu.repo.nii.ac.jp/>

おすすめ図書紹介!

秋田キャンパス

『村上海賊の娘 上・下』
 和田竜著
 新潮社 2013年
 請求記号:913.6/W12



2014年本屋大賞第1位!
 攻めて来る信長から大阪本願寺を守るため、物資輸送手段を海路に求めた毛利。瀬戸内の海を操れるのは村上海賊しかいない。舟に乗り、戦いに挑んでいったのはなんと娘の景姫であった。歴史の解説が随所にあり読みやすいです。
 ※本荘・大湯キャンパスでも所蔵しています。

本荘キャンパス

『学生時代にやらなくてもいい20のこと』
 朝井リョウ著
 文芸春秋 2012年
 請求記号:914.6/A83



「桐島、部活やめるってよ」の作者朝井リョウのエッセイ集です。早稲田大学在学中に作家デビューした彼が、どんな学生生活を送っていたのか赤裸々につづられています。
 就職活動に悩む姿やあきれてしまう何ともアホなエピソードも多々あり、爆笑の連続。学生が読めばこの作家が身近に感じられることでしょう。

大湯キャンパス

『イベリコ豚を買いに』
 野地秩嘉著
 小学館 2014年
 請求記号:465.5/NO



最近よく耳にする「イベリコ豚」とはいったいどんな豚?
 その謎を解くべくスペインまで出かけ徹底取材した食のノンフィクションです。
 生ハム作りに命を捧げる職人たちとその家族のドラマとともに食肉流通事情も明らかになります。
 これを読んだ後にはイベリコ豚を食べたくなること必至。スペイン料理屋へ直行しましょう。

瞬間風速

毎号テーマに沿って、大学に携わる人の“瞬間”をお届けするコラム。

今回のテーマは「国際交流」。



システム科学技術学部
建築環境システム学科
長谷川 兼一 教授

グローバルな視点で 世界に目を向けよう

グローバル化ということばをご存じでしょうか？これはGlobalizationとLocalizationを組み合わせた混成語です。その意味するところは「地球規模の視野で考えて、地域に根ざして活動する(Think globally, act locally)」こととなります。もともとは国内企業の海外進出を狙ったマーケティング分野で使われていたようですが、現在では、あらゆる分野に当てはまることとなります。地球環境問題の解決に向かうための私たちの心構えにも引用されることも多くあります。

当然のことながら、グローバル化は大学においても必然であり、秋田県立大学も例外ではありません。秋田を拠点としながら世界に目を向けて、自らの専門分野の発展に貢献、さらには分野を先導する役割を担うことが期待されています。

本学でも学生教育の一環として「国際交流」に重点を置いており、それを後押しするために積極的な活動を継続しています。例えば、米国の大学への語学研修や協定を結んだ大学への短期留学の機会を提供し、海外の学生との交流を促しています。また、海外の学生を短期間受け入れて、本学のみならず秋田の魅力を伝えています。このような交流の機会に参加する学生は皆、礼儀正しく、相手を尊重する気持ちを強く持っています。日本人として何が誇れるのか、国際交流を経験した学生それぞれが世界に目を向けて、自らを高めるきっかけにもなっていると思います。



生物資源科学部
生物生産科学科
森田 弘彦 教授

海外への好奇心・尊敬と 自国の理解で世界へ

秋田キャンパスで、将来農業関係の国際場面での就業を希望する学生さんが相談に来てくれるようになり、心強く思います。交通手段と通信手段の発達で日ごとに狭くなる世界の中で、私たちは何らかの形で他の国と関わる時代になったと思います。「海外でも活躍できる学生の育成」に向けた県大の各種のプログラムに加えて、家族旅行や高校での研修などでの海外体験をもとに、世界に目を向ける学生さんが増えてきたのでしょうか。

農林水産省の研究員の職に就いた後に、海外での仕事を避けていた私にとって、約30年前、南アジアのスリランカでの2年間のイネの共同研究が初の海外体験となりました。

熱帯では、生育期間の短い品種の使用は水の節約になる一方、コメの収量は生育期間の長い品種に及ばないため、イネ短期品種の収量向上技術が研究テーマでした。日々の生活や研究を通して何でもご存じの現地の研究者に対して、「日本に蓄積されたイネの研究成果の活用と現地の常識を少し別な角度から見る思考」を頼りにして、研究成果をまとめました。その後も、稲作の雑草の生態と防除の研究を中心に海外との交流の機会に恵まれました。

2007年に県大に来て以降も、この体験が教育・研究や学生の海外との交流に役立ちました。皆さんには、異文化への強い好奇心を動機に、海外の人、食、自然、産業、文化に深い尊敬を払う気持ちを養い、県大での国際交流に主体的に参加して頂きたいと思います。



廃線1日復活チャレンジの設計・製作に協力しました！

—アドバンスト自主研究「ソーラーカーの駆動特性の解析」グループ—

11月2日(日)に大館市で行われた「エボルタチャレンジ2014 廃線1日復活チャレンジ」。これは乾電池99本を動力源とした電車を、廃線となった旧小坂鉄道8.5kmのレールで走らせようというパナソニック(株)主催のイベントです。この取組に、本学機械知能システム学科の御室哲志教授と、アドバンスト自主研究(※)「ソーラーカーの駆動特性の解析」グループの学生5名が、車両の設計および車体の製作に協力しました。

御室教授と学生たちは7月から現地調査に臨み、その調査結果を踏まえて転がり抵抗の推定と、必要電力や電力量予測などを算出し、実験の計画提案を行いました。10月からはアルミフレームと特殊強化段ボールで作られた車体の組立や試走等への参画も行い、チャレンジが成功するよう準備を重ねていきました。

チャレンジ当日の大館市の天気は曇り。時折雨も降るなかでチャレンジは行われ、車両だけで約400kg、地元の小学校の子どもたちを乗せると約1トンもの重さになる電車は、スタート地点の雪沢温泉・大雪前を出発し、約2時間かけて、大館駅近くの御成町踏切手前のゴールに到着。見事乾電池のみで完走しました。

参加した3年生の八木邦彦さんは、「7月はメンバーで分業し、私は計測を担当しました。大館・小坂鉄道レールバイクにお邪魔してレールバイクを牽引し、得られた走行抵抗から完走に必要な乾電池の本数を見積りました。10月には車両の組立と試運転に全員で参加しました。わずかではありますが、このプロジェクトに関われたことを光栄に思います。」と話しました。

また、御室教授は「地元大学として車両製作に関わらないかと6月後半に打診され、ソーラーカーのアドバンスト自主研究をやっていたメンバーを誘いました。大館には何度も通い、学生たちは多様な社会人に交じってひと夏で成長したなと思います。」と話しました。

今回の取組への参加は、学生にとっても素晴らしい「チャレンジ」となったようでした。

※アドバンスト自主研究…学部3年次の学生が、早期から専門研究活動を実践できるように、教員が提示する研究テーマについて学生を募集し、研究支援する取組。



Kendai [秋田県立大学広報誌]

イスタ
Akita Prefectural University

「イスタ」は、秋田弁で「良いですね」という意味。人材育成・研究開発を通して、地域社会の発展のために「良い」ことを発信していきたいという願いを込めています。これからも応援よろしくお願いします。

Akita Prefectural University
秋田県立大学

<http://www.akita-pu.ac.jp/>

E-mail:koho_akita@akita-pu.ac.jp

twitter:@Akita_P_U

秋田キャンパス ■本部 ■生物資源科学部 ■大学院/生物資源科学研究科
〒010-0195 秋田県秋田市下新城中野字街道端西2-1-438 TEL.018-872-1500 FAX.018-872-1670

本荘キャンパス ■システム科学技術学部 ■大学院/システム科学技術研究科
〒015-0055 秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4 TEL.0184-27-2000 FAX.0184-27-2180

大瀧キャンパス ■生物資源科学部(アグリビジネス学科3・4年次)
〒010-0444 秋田県南秋田郡大瀧村字南2-2 TEL.0185-45-2026 FAX.0185-45-2377

木材高度加工研究所
〒016-0876 秋田県能代市字海録坂11-1 TEL.0185-52-6900 FAX.0185-52-6924